

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	簡易水道事業特別会計	031	款	02	項	01	目	01
事務事業名	大沢郷地区簡易水道施設整備事業								
担当部署	西仙北支所農林建設課	4302000	電話	75-2970			内線		

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	04:生活の基盤が整ったまちづくり
	施策の大綱	04:上水道の整備
	施策	03:浄水施設の整備
	施策の内容	02:施設管理の効率化
根拠法令等	水道法、大仙市簡易水道事業の設置に関する条例	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	①水道未普及地の解消。 ②水量不足の解消。 ③公営水道1箇所、非公営水道4箇所の統合による施設運営の効率化。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	大沢郷地区簡易水道事業区域内の住民の一部。
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①導水施設 路面復旧 市道(歩道・車道)As舗装 1式 ②浄水施設 急速ろ過設備(鋼板製圧力式) 2基 ③送水施設 路面復旧 市道(歩道・車道)As舗装 1式 ④配水施設 第1配水場 場内配管及び場内土工 1式 ⑤配水管 配水管布設 φ200～φ50 Σ5,4943.3m ⑥電気計装 集中監視設備(強首・川西・心像小杉山・半道寺) 1式 ⑦ダム負担金(成瀬ダム建設工事費負担金) 1式
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	大沢郷地区は全体の約8割は沢水や井戸水に依存した水道未普及地で水質に不安があり、湧水期には慢性的な水量不足に陥っていたため、以前より早急な水道整備が求められていた。本事業により、小規模な公営・非公営の既存水道を統合・整理し、施設運営の効率化を図るとともに、水道未普及地を解消し、安全で豊富な水道水の安定供給を可能とすることができる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 段階確認回数	回	139	117	11
	② 配水管布設延長	m	9,748	8,507	18,955
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 水道料金賦課件数(年度末)	件	107	248	374
	② 上記にかかる人口(年度末)	人	348	810	1,473
	③ 年間有収水量	m ³	9,275	29,333	43,313
投入コスト	決算額		559,410千円	329,846千円	352,586千円
		一般財源	410千円	10,946千円	3,474千円
			2,141千円	2,819千円	2,853千円
	人件費	一般職員の年間従事人数	0.3人	0.4人	0.4人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
	総コスト	(決算額+人件費)	561,551千円	332,665千円	355,439千円

事業を取り巻く環境	大沢郷地区簡易水道施設整備事業は、雄物川水系成瀬ダムに暫定豊水水利権を確保し、平成14年度の事業開始から成瀬ダム建設工事費を負担し、これまで実施設計業務委託、用地買収、立木補償等を進め、平成19年度から平成23年度までの期間で工事請負契約を締結した。その後、工事の進捗に伴い平成20年12月より一部給水を開始し、平成21年6月より更に給水範囲を広げ、早期の全域給水に向けた施工により平成22年6月に大沢郷全域への給水が可能となった。工事にあたっては、継続費を設定して一括発注した事により、早期現場着手等が図られ、安全で安定した水道水の供給が図られた。
-----------	---

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	大沢郷地区の大半は沢水や井戸水等の自家用水源を利用し、例年慢性的な水量不足や濁水に悩まされ、早急な水道整備が求められてきた。また、非公営水道における老朽化施設の更新、良質で豊富な水源の確保等の問題を抱えきたが、この事業の実施により、清浄にして豊富低廉な水の供給が図られ、公衆衛生の向上と生活環境の改善を推進することができる。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	平成20年12月1日の一部給水開始から、さらに給水範囲を拡大し、平成22年6月には大沢郷全域給水が可能となり、水道申込者は早期の接続をし成果は上がっている。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	大沢郷地区簡易水道施設の維持管理については、民間委託等をせずに職員で対応している。 また、工事の施工にあたっては、平成21年度より県道及び市道の配水管布設を浅埋設にし、舗装復旧幅を広くし人力施工から機械施工にし、交通量の少ない市道の区画線を取り止めるなどにより事業費の削減を図った。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	現状	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
A 現状のまま継続	現状	水道は、豊で快適な生活を保持し、健康で文化的な生活を営むうえで欠くことのできないライフラインであり、大沢郷地区簡易水道施設整備事業は、長年にわたり水量不足や濁水に悩まされ続けてきた大沢郷地区住民にとっては生活環境の改善に多大な貢献を果たすことができた事業として評価できる。 平成22年度中に配水管の布設がほぼ完了し全域の給水が可能となるが、平成23年度までの工事期間終了後の平成24年度以降は成瀬ダム負担金が継続されることとなるが、大沢郷の水源は成瀬ダムの放流水を利用した雄物川の伏流水のみであることから、今後も現状のまま継続することが妥当である。
B 改善しながら継続		
C 拡大		
D 縮小		
E 廃止		
F 終了		